

100 世界遺産の旅 (126)

日本海軍発祥地

神戸は、日本海軍発祥の地である。1864年、神戸村に軍艦奉行の勝海舟を長とする幕府直轄の海軍操練所が開設された。そして、その勝海舟を師として仰ぐ坂本龍馬によって、諸藩士、浪人、町人、百姓の海軍塾が併設された。

場所は、現在の神戸市中央区新港町で、西は京町筋の浜側より、東は神戸税関のあたりである。



海軍操練所跡、神戸市中央区新港町、2021年11月

1860年、勝海舟は、日米修好通商条約の批准のため、福沢諭吉等と共に咸臨丸でサンフランシスコを訪れている。帰国後、操船技術向上の必要性を幕府へ進言し、攘夷論高揚の当時、大阪湾防備を考え合わせ、操練所は神戸村に決定された。

坂本龍馬の海軍塾の開設にあたっては、越前藩主の松平春嶽より千両以上の融資があった。春嶽は、啓蒙専制大名というべき人物で、先見の目があり、生糸やお茶などの交易で富を蓄えたようだ。

また春嶽は、勝海舟に警護の申し出をしたが、海舟は固辞し、次の句を送り決意を示した。

国の為、世の為、死なん身なりせば
生田の杜の神もたのみ

1864年、長州藩が、京都へ進攻して「禁門の変」が勃発したが、反幕府分子として海軍塾生が含まれていたことから、1865年、海軍操練所は閉鎖された。

海舟は海軍営之碑を制作したが、軍艦奉行罷免がゆえ、海軍操練所には設置されなかった。海舟が「今のうちに神戸の土地を買っておくがいい」と勧

めたところ、地価が高騰し、親交のあった神戸村庄屋の生島四郎は、大きな利益を得たので海舟の助言に感謝し、碑を引き取って庭に埋めて隠した。

1915年、海軍営之碑は、生島家より神戸市に寄贈された後、再度山麓にある諏訪山に設置された。



勝海舟/海軍営之碑、諏訪山、神戸、2021年12月

1865年、坂本龍馬は長崎へ移り、1867年、海陸隊を結成している。龍馬は、薩長同盟や大政奉還の演出家であったが京都で暗殺され、後に勝海舟(幕府)と西郷隆盛(倒幕)が主役を演じた。

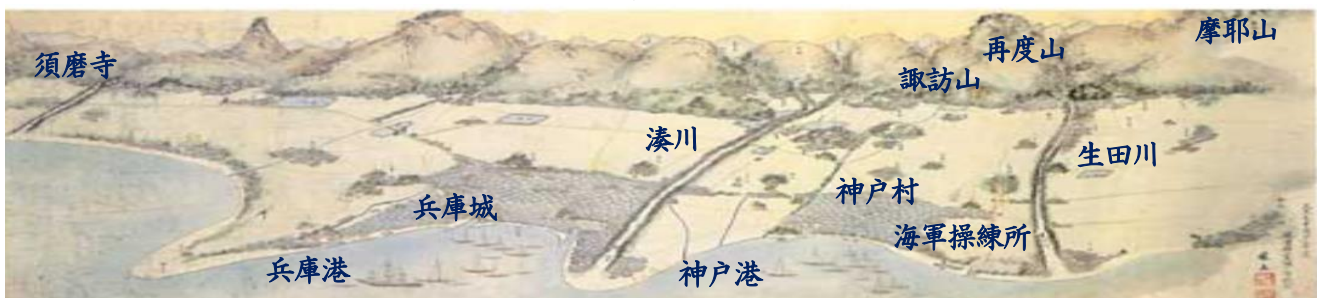
王政復古の号令を経て誕生した新政府は、1868年、兵庫城跡に兵庫県庁館を建設し、初代知事には、後に首相となった伊藤博文が就任した。

伊藤博文の銅像は、神戸/大倉山公園(ホテルオークラの大倉財閥の元別荘)にあったが、金属供出で解体され、彼自身はハルビンで凶弾に倒れた。



初代兵庫県庁館(復元)、兵庫城跡、2021年11月

楠木正成、新田義貞、足利尊氏、平清盛、源義経、豊臣秀吉、坂本龍馬、勝海舟などの武人が兵庫津/湊川/神戸に去来し、数多の歴史を刻んだ。



從摩耶山至須磨寺眺望 愛山筆 文久元年(1861) 神戸市立博物館所蔵